

令和 6 年 5 月 28 日現在

機関番号：14301

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2023

課題番号：18K18242

研究課題名（和文）ソ連解体後ウズベキスタンのバザールにおける商実践の特徴と変容：家畜売買の事例から

研究課題名（英文）Characteristics and Transformation of Trading Practices in the Bazaars of Post-Soviet Uzbekistan: The Case of Livestock Trade

研究代表者

宗野 ふもと（Sono, Fumoto）

京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・特任研究員

研究者番号：30780522

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は中央ユーラシアにおいて重要な商業拠点であったバザールが、ソ連時代の管理を経て、1991年のソ連解体以降にいかに活性化しているか、バザールにおいてどのような商実践をしているのかを女性の商人に着目して明らかにした。その結果、ソ連解体以降の経済混乱や市場経済浸透の中で、バザールが現金収入源を求める人々の受け皿として機能していることが明らかになった。さらに、ソ連時代には職種や職位が男女で分離される傾向があったこと、独立以降にイスラームへの関心が高まる中で、老若男女が行き交い、社会保障も手薄なバザールでの仕事は女性向きではないという認識が存在することも明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

先行研究において「貧困対処」として一枚岩的に捉えられてきたバザールにおける活動は、これまで十分に研究されてこなかったが、本研究では、バザールで働く女性などへのインタビューや観察を通して、バザールにおける女性の経済活動の一端を具体的に明らかにした。また、本研究を通して一見対立するように思える、ソ連時代に対するノスタルジアとイスラーム的生活への希求が、人々の間で共存している可能性も見えてきた。これは、ソ連社会主義を経たイスラーム地域の特徴の考察を進める際の重要な手がかりになるだろう。

研究成果の概要（英文）：This research aimed to analyze how bazaars, which were important trading centers in Central Eurasia, have been revitalized since the collapse of the Soviet Union in 1991 after the restrictions of the Soviet period, and what kind of trading practices people have in bazaars, focusing on female sellers. The results revealed that during the economic turmoil and spread of the market economy after the dissolution of the Soviet Union, bazaars have accepted people in seeking income sources of cash. The research also revealed that during the Soviet period, occupations were relatively divided based on sex and that as interest in Islam increased after independence, there was a perception that working in bazaars, where men and women of all ages come and go, was not suitable for women.

研究分野：中央アジア地域研究

キーワード：バザール ウズベキスタン 中央アジア 再イスラーム化 女性

1. 研究開始当初の背景

国家が人々の生活を管理、保障していたソ連が 1991 年に解体すると、ウズベキスタンを含む中央アジア諸国は市場経済化を余儀なくされ、急激なインフレや失業者増加に象徴される不確実性の高い時代に突入した。こうした時代状況を背景に、ウズベキスタンのバザールでは経済活動の制限が撤廃され、失業した人々が生活の糧を得るため駆け込み活況を呈した。2000 年代半ばに経済が成長に転じて以降は、バザールは外国製品や地域特産品の集積地として、その規模と数を拡大させている。申請者が 2016 年度に行った調査では、調査地域ではソ連解体後バザールの数は 2 から 16 に増加したことが明らかになった。このことから、ウズベキスタンではバザールにおける経済活動は活性化しているといえる。

本研究は、バザールはウズベキスタンの自然環境、生業に根差した場であると捉え、バザールでの活動も人々の生活維持において重要な役割を持つと見なし、その実態と論理解明を目指した。

2. 研究の目的

先行研究では、地縁・血縁関係の機能や変容に注目が集まり、バザールでの活動はソ連解体を契機として生じた「貧困」に対処する活動として一枚岩的に捉えられてきた。ゆえに、いかにバザールが活性化したのか、バザールにおいて人々はどのような活動をしているのかについては、ほとんど明らかにされてこなかった。これを踏まえて、本研究では、女性の売り手に焦点を当て、ソ連解体以降のバザールの活性化プロセスと、商実践の実態を明らかにした。

3. 研究の方法

上記研究の問題意識を踏まえ、a)バザール活性化プロセス(1980~2000年代半ば)、b)経済成長期(2000年代半ば~現在)における商実践、c)バザールでの活動に対する認識についてフィールドワークと行政資料と定期刊行物の収集を行った。

4. 研究成果

2018 年度は、ウズベキスタンのバザールに関する基礎情報を、現地での聞き取りと文献を通して収集した。ソ連時代には、バザールは「コルホーズ市場」として各世帯に付属する私的耕作地で生産される余剰作物や私有家畜を販売するための商空間として、1930 年代に合法化されていた。計画経済体制下でありながら、バザールでは品物を自由価格で売ることが許されていた。報告者が調査をしているウズベキスタン南部カシュカダリヤ州の村落部では、ソ連時代には、国営商店よりも週に一度開催されるバザールが人々の生活物資購入の場及び余剰生産物販売の場として重要性が高かった。さらに、ソ連解体後は、調査地においてバザールの規模と数は増加しており、また、仲買人の活動が解禁されたことから多くの人々がバザール商売をするようになったことが明らかになった。一方で、タシュケントやサマルカンドの都市部ではショッピングモールやスーパーマーケットの開店が相次ぎ、バザールに競合する商業施設としての存在感が高まっていることが明らかになった。

2019 年度は三回フィールドワークを実施し、バザールで乳製品を扱う商人を対象とした聞き取り調査及び商売の参与観察を行った。1990 年代後半バザールで乳製品売買が活性化したことが明らかになった。聞き取り調査を実施したバザールでは、乳製品商人はすべて女性だった。彼女たちの半数以上は、乳製品売買で得る収入は日々の食糧を賄うほどで少額だと考える一方、この商売は家計の主たる収入源であるという認識を持っている。バザールにおける乳製品売買は、経済的に豊かではない女性たちの現金獲得活動だと考えられる。

また、ソ連時代の女性の労働経験についての研究ノート(研究成果)を刊行した。この論考においては、元工員への聞き取り文献調査により、1960 年代以降には大多数が女性工員の工場が存在していたこと、そこでは家事・育児との両立がしやすく、かつ年金、育休、レクリエーションが保障されたことが明らかになった。元工員は当時の労働環境を懐かしんでいることも明らかになった。

2020 年度は、フィールドワークを予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大のために実施できなかった。しかし、2019 年度に実施したフィールドワークにもとづき、写真入りのコラムを執筆し、ウズベキスタン村落部の自家製乳製品の生産と消費のあり様を紹介した(研究成果)。また、これまでに得た情報にもとづいて、二つの研究成果を発表した。第一には、ローカルな材料を用いて生産されるモノの売買が、ソ連解体後の市場経済化下でいかに変容しているのかという問題について考察した英語論文を刊行した(研究成果)。第二に、ソ連時代の女性の社会進出に関するテーマで学

会発表を行った（研究成果）。これを通して、ソ連時代に宣伝された「女性は家庭の外で仕事に就くべき」というイデオロギーの浸透が、ソ連解体直後に女性が日銭を稼ぐためにバザールに参入したこととどのような関連があるのかについて、本研究課題で明らかにする必要性を認識した。

2021 年度もコロナウィルス拡大防止による渡航制限が続いたため、ウズベキスタンでのフィールドワークができなかった。これまで収集してきた資料を基に、第一に、ソ連時代の女性向け雑誌に関する資料紹介論文を論集に寄稿し、第二に、ソ連時代からソ連解体後にかけての手工芸生産の変遷に関する論文を英文誌に投稿した。

2022 年度は昨年度論集に寄稿したソ連時代の女性雑誌『サオダト (Saodat)』（1972-74 年刊行分）の資料紹介論文を、査読意見に基づき修正し刊行することができた（研究成果）。原稿の修正作業を通して、記事中ではバザールでの女性の活動が言及されることは少なかったことから、1970 年代にはバザールでの女性の経済活動はインフォーマルなものとして捉えられていたことがわかった。

2023 年度は、2021 年度に投稿した、ソ連時代とウズベキスタン独立後のシャフリサブズにおける手工芸生産の連続性について考察した英語論文を刊行することができた（成果）。この中で、ソウズベキスタン独立後の市場経済の進展により雇用が不安定化する中で、ソ連時代の労働環境や労働理念に対するノスタルジアを持ち、バザールでの活動を批判的に捉える女性がいることも明らかになった。

本研究課題期間中は、新型コロナウィルスの流行により現地フィールドワークが叶わなかった期間も長く、当初の計画通り研究を進めることが困難となり、研究計画も変更を重ねざるを得なかった。しかし、本研究を通して、一部女性の間ではソ連時代に対するノスタルジアとイスラーム的生活への関心が共存していることが見えてきた。この点は、今後、社会主義的近代化、イスラーム、市場経済の浸透の三つの関わりを検討する際の手掛かりになると考えている。

研究成果

宗野ふもと「ソ連期ウズベキスタンにおける社会主義的近代化と女性 シャフリサブズ『フジウム』芸術製品工場の労働者の事例から」『日本中央アジア学会報』日本中央アジア学会、第 15 号、1-22 頁、2019 年 7 月。DOI: <https://doi.org/10.14943/jacas.15.1> / ISSN: 1880-0076

宗野ふもと「ウズベキスタンの水切りヨーグルト『チャツケ』について」『中央アジアと日本』4、日本財団中央アジア・日本人材育成プロジェクト、33-35 頁、2021 年 1 月。

Sono Fumoto “How Local Handicrafts Enter the Global Tourism Market: A Case Study on a Carpet Business in Rural Uzbekistan”, Japanese Review of Cultural Anthropology, Vol. 21, no. 1, pp. 79-114, 2020, May. DOI: https://doi.org/10.14890/jrca.21.1_079 / ISSN: 2432-5112

宗野ふもと「家族強化論と『封建的』な家族・ジェンダー規範の考察：ウズベキスタン・シャフリサブズ市の女性工場労働者の事例から」日本中央アジア学会 2020 年度年次大会、2021 年 3 月 21 日（オンライン開催）。

宗野ふもと「ウズベキスタンの女性雑誌『サオダト』（幸福）：1972～1974 年の記事目録」磯貝真澄・帯谷知可編『中央ユーラシアの女性・結婚・家庭 歴史から現在をみる』国際書院、2023 年 3 月、203-279 頁。ISBN: 978-4877913212

Sono Fumoto “Cultural Heritage in Preserving National Traditions”, International Affairs, Jahon Iqtisodiyoti va Diplomatiya Universiteti, No. 99-100, pp. 116-131, 2023, July-August. ISSN: 2010-6203

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Sono Fumoto	4. 巻 21
2. 論文標題 How Local Handicrafts Enter the Global Tourism Market: A Case Study on a Carpet Business in Rural Uzbekistan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japanese Review of Cultural Anthropology	6. 最初と最後の頁 79-114
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 宗野ふもと	4. 巻 42
2. 論文標題 住込みフィールドワークでテーマに出会う：ウズベキスタンの田舎暮らしとパザールの賑わい	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 筑波大学地域研究	6. 最初と最後の頁 55-66
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 宗野ふもと	4. 巻 第15号
2. 論文標題 ソ連期ウズベキスタンにおける社会主義的近代化と女性 シャフリサブズ「フジウム」芸術製品工場の労働者の事例から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本中央アジア学会報	6. 最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 宗野ふもと	4. 巻 99-100
2. 論文標題 Cultural Heritage in Preserving National Traditions	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 International Affairs	6. 最初と最後の頁 116-131
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 宗野ふもと
2. 発表標題 家族強化論と「封建的」な家族・ジェンダー規範の考察：ウズベキスタン・シャフリサブズ市の女性工場労働者の事例から
3. 学会等名 日本中央アジア学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Sono Fumoto
2. 発表標題 Continuity and Changes in Handicraft Production in Uzbekistan: The Case of Shahrizabz
3. 学会等名 Sustainable Development in Central Asia (国際学会)
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 宗野ふもと	4. 発行年 2023年
2. 出版社 国際書院	5. 総ページ数 289
3. 書名 磯貝真澄・帯谷知可編 『中央ユーラシアの女性・結婚・家庭 歴史から現在をみる』	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------